

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

1日

先負 胃

旧10月12日

月曜

妙法蓮華経妙莊嚴王本事品第二十七

世世得善智識

「世世に善智識を得る」

雲雷宿王華智仏は妙莊嚴王に何度生まれ変わっても善智識に会うだろうと告げられました。

「世世」には、前世で善行を積んだ縁で現世で、二人の息子という善智識に会い、仏の教えに出会い授記を得ることができたが、生まれ変わった後の世においてもまた善智識に会い、ますます善い方向に行くだろうということです。

善行の積み重ねて行けば、何度生まれ変わってもその報いが現れるのは大変ありがたいことです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

2日

仏滅 昴

旧10月13日

火曜

妙法蓮華経妙莊嚴王本事品第二十七

ぜん

ちしきしゃ

善智識者

ぜ

だいいんねん

是大因縁

「善智識に会えたのは、前世の大因縁による」

善智識を得られたということは何より貴いことであり、自分一人のできることではなく、過去世からの善行の積み重ねがあつてこそのことだとわきまえ、今を大切に生きなければなりません。妙莊嚴王の二人の息子は、すでに過去世において多くの仏さまにお仕えして、苦悩に満ちたこの世に生まれ、父王や大勢の人々を導きました。その息子たちに会えたことも前世の「大因縁」にあり感謝を忘れぬようにと諭されたのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

3日

大安 畢

旧10月14日

水曜

妙法蓮華経妙莊嚴王本事品第二十七

以い功く徳どく智ち慧え故こ

「仏さまの功德と智慧が容姿に現れる」

仏さまには一切衆生を救うための功德と智慧が具わり、その徳がお姿に現れてきます。

頂上肉髻 光明顕照…頭の中央の高まりが輝く
其眼長広 而紺青色…目は長く広く紺青である
眉間毫相 白如珂月…眉間の白毫は満月の如し
齒白齊密 常有光明…齒は白く光り白く輝く
唇色赤好 如頻婆果…唇は赤く果実の如し
仏さまの徳は容姿に現れ、それを見た者に大きな感化を与えるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

4日

赤口 鶯

旧10月15日

木曜

妙法蓮華経妙莊嚴王本事品第二十七

きようかい しよぎよう

あん のん け ぜん

教戒所行 安穩快善

「教戒の所行 安穩快善なり」

教えを守り、戒を受けるということは、窮屈で面倒なことのように思えるかもしれませんが、

苦悩は煩悩が原因となって起きるもの、その煩悩を除くために教えや戒が与えられ心の安穩が得られるのですから、有難く教えと戒をいただきます。

苦い薬を飲んで病が治るように、はじめは面倒だと思っても信仰が生活の一部となれば、安穩な日常が得られるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

5日

先勝 参

旧10月16日

金曜

妙法蓮華経妙莊嚴王本事品第二十七

不復自随心行

「自らの心行に随わない」

仏に成れると授記をいただいたのであるから、
煩惱に満ちた自分の心に随わないようにしな
ければならないと、妙莊嚴王は誓いました。

仏に成れると言われて安心して、自分の小さな
心に引きずられてはいけません。

邪見(自分中心にものを考える)、驕慢(わかった
つもりになる)、瞋恚(瞋り散らす)などの悪心を
起こさず、仏さまの恩に報いるために努めるこ
とを忘れてはいけないという教訓です。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

6日

友引 井

旧10月17日

土曜

妙法蓮華経妙莊嚴王本事品第二十七

みょうししょうごんのう き い にんこ こんけとくぼさつぜ

妙莊嚴王 豈異人乎 今華徳菩薩是

ごじょうとくぶにん こんぶつぜん こうししょうしやうごんそうぼさつぜ

其浄徳夫人 今佛前光照 莊嚴相菩薩是

「妙莊嚴王は華徳菩薩、浄徳夫人は莊嚴相菩薩」

お釈迦さまは、過去の妙莊嚴王は今この会座にいる華徳菩薩であり、浄徳夫人は今ここで周囲を照らしている莊嚴相菩薩であると告げられました。

『提婆達多品』の龍女成仏、『勸持品』の摩訶波闍波提比丘尼と耶輸陀羅比丘尼の授記と同じように、女性である浄徳夫人も男女の差別なく菩薩となり、仏の救いが届くことが示されています。一切衆生が分け隔てなく救われるという仏教の精神が説かれている部分です。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

7

日

大雪

先負 鬼

旧10月18日

日曜

妙法蓮華経妙莊嚴王本事品第二十七

ごに ししや

其二子者。

こんやくおう

ぼ さつ

やくじょうぼ

さつ ぜ

今薬王菩薩。

薬上菩薩是

「浄蔵・浄眼の兄弟は、今の薬王菩薩と薬上菩薩である」

お釈迦さまは、浄蔵・浄眼の兄弟は、今の薬王菩薩と薬上菩薩であると告げられました。

子が親を諭し、身近な家族を正しい信仰に導くことの難しさと尊さが本品に説かれています。

さらに前世の善行が現世・未来世へとつながり、やがて仏に成る道のりも描かれています。

日蓮聖人は、念仏信者の父を法華経信仰に導いた池上兄弟を浄蔵・浄眼になぞらえ、「薬王・薬上の二人か」と、池上兄弟を激励されました。

妙法蓮華經妙莊嚴王本事品第二十七

若善男子。善女人。種善根故。世世得善知識。其善知識。能作佛事。示教利喜。令入阿耨多羅三藐三菩提。大王。當知。善知識者。是大因緣。所謂化導。令得見佛。發阿耨多羅三藐三菩提心。大王汝見。此二子不。此二子。已曾供養。六十五百千萬億。那由佗。恒河沙諸佛。親近恭敬。於諸佛所。受持法華經。愍念邪見衆生。令住正見。妙莊嚴王。即從虛空中下。而白佛言。世尊。如來甚希有。以功德智慧故。頂上肉髻。光明顯照。其眼長広。而紺青色。眉間毫相。白如珂月。齒白齊密。常有光明。唇色赤好。如頻婆果。爾時妙莊嚴王。讚歎佛如是等。無量百千萬億功德已。於如來前。一心合掌。復白佛言。世尊。未曾有也。如來之法。具足成就。不可思議。微妙功德。教戒所行。安穩快善。我從今日。不復自隨心行。不生邪見。憍慢瞋恚。諸惡之心。說是語已。禮佛而出。佛告大衆。於意云何。妙莊嚴王。豈異人乎。今華德菩薩是。其淨德夫人。今佛前。光照莊嚴相菩薩是。哀愍妙莊嚴王。及諸眷屬故。於彼中生。其二子者。今藥王菩薩。藥上菩薩是。是藥王藥上菩薩。成就如此。諸大

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

8日

仏滅 柳

旧10月19日

月曜

妙法蓮華経妙莊嚴王本事第二十七

とく ほう げん じょう
得法眼浄

「法眼浄を得た」

「法眼」とは五眼の一つ。

- ①肉眼…凡夫の肉眼、ただものの形態を見る
 - ②天眼…普通の人には見えない物まで見る力
 - ③慧眼…なぜ迷いが起るかを明らかに知る力
 - ④法眼…皆が仏に成ることを見極める力
 - ⑤仏眼…すべてを間違いなく正しく見る力
- 自分一人が仏に成るのではなく、皆を仏にするために力を尽くし、それを大きな喜びとなる心持が具わること「法眼浄を得た」というのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

9日

大安 星

旧10月20日

火曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

ふ げん ぼ さつ

普賢菩薩

「普賢菩薩は理を司る」

普賢菩薩は文殊師利菩薩とともにお釈迦さまの脇士として救済活動を援助する菩薩です。

六牙の白象に乗ってお釈迦さまの右方に侍し、「理」を司るのが普賢菩薩、左方で師子に乗り「智」を司るのが文殊師利菩薩です。

法華経は、『序品第一』の文殊・弥勒の問答に始まり、『普賢菩薩勸発品第二十八』の普賢菩薩の行者守護をもって閉じられます。

「智」で始まり「理」で終わるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

10日

赤口 張

旧10月21日

水曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

かん ほん
勸発

「人に勧めて仏道を求める心を起こさせる」

「勸発」とは、人に勧めて仏道を求める心を起こさせることです。

仏さまの教えを信じ、実践しようとして決心した人に普賢菩薩が力を添えるのが『勸発品』です。

普賢菩薩が司る「理」とは、絶対の真理・すべての物を貫く真実のことです。

その「理」が明らかになれば、一切衆生を導こうという力になっていきます。

普賢菩薩は「理」を求める力を添えるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

11日

先勝 翼

旧10月22日

木曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

威徳名聞

いとく みよう もん

「威徳が周囲を感化し、その名も聞こえる」

「威徳名聞」とは感化する力のことです。

徳が高ければ自ずから周囲を動かす、その名も
広く知られるようになります。

宣伝広告をして名前を売ることと違い、仏さま
の教えに帰依することによって具わった威徳
が周囲を感化し、世の中を善くして、その名も
聞こえるようになるということです。

普賢菩薩は「威徳名聞」を以て多くの菩薩たち
を引き連れて東方からやってきたのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

12日

友引 軫

旧10月23日

金曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

ほう い とく じょう おう ぶつ こく

宝威徳上王仏国

「宝威徳上王仏の国から来た普賢菩薩」

普賢菩薩は東方の宝威徳上王仏の国から娑婆世界のお釈迦さまのもとにやってきました。

「宝威徳上王仏」とは、徳が非常に高く、周囲を救う大きな力を具えた仏という意味です。

宝威徳上王仏が治める国は安穏であるのに対して、娑婆世界は世相が険悪で人心は荒んでおり、その娑婆世界で法華経を説き人々を救おうとされているお釈迦さまを慕い、力を尽くそうとやってきたのが普賢菩薩です。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

13日

先負 角

旧10月24日

土曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

おにょらい めつご

於如来滅後

云何能得

是法華経

「如来の滅後にいかにして法華経を伝えるか」

お釈迦さまが在世のうちには、直接説法を聞き感化される人が溢れているので心配はないが、御入滅されて年月が経つと、世の中は險悪となり法華経の精神を伝えることが困難になってきます。

滅後に法華経を伝えるためにはどうしたらよいのかを伺いたいと、普賢菩薩はお釈迦さまのもとにやってきました。

法華経の最後の『勸発品』において、滅後の弘教について明確に示されるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

14日

仏滅 亢

旧10月25日

日曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

じょう じゆ し ほう

成就四法

「法華経の精神を持ち弘めるための四つの心得」

「成就四法」とは末法の世において法華経の精神を持ち続け、世に弘めるための四つの心得です。

① 諸仏護念…諸仏に護られていると信じること

② 植諸徳本…徳を積むように心がけること。

③ 入正定聚…正しい教えを見定めて、必ず仏に成ると決心した者の仲間に入ること。

④ 発救一切衆生之心…一切衆生を救おうと発心すること。

四法を心得て、仏滅後も弘教に励みましょう。

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

爾時普賢菩薩。以自在神通力。威德名聞。与大菩薩。無量無辺。不可称数。從東方來。所經諸国。普皆震動。雨宝蓮華。作無量百千万億。種種伎楽。又与無數諸天。龍。夜叉。乾闥婆。阿脩羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。大衆圍繞。各現威德。神通之力。到娑婆世界。耆闍崛山中。頭面礼釈迦牟尼佛。右繞七匝。白佛言。世尊。我於宝威德上王佛国。遥聞此娑婆世界。說法華經。与無量無辺。百千万億。諸菩薩衆。共來聽受。唯願世尊。當為說之。若善男子。善女人。於如来滅後。云何能得。是法華經。佛告普賢菩薩。若善男子。善女人。成就四法。於如来滅後。當得是法華經。一者為諸佛護念。二者植諸德本。三者入正定聚。四者發救一切衆生之心。善男子。善女人。如是成就四法。於如来滅後。必得是經。爾時普賢菩薩。白佛言。世尊。於後五百歲。濁惡世中。其有受持。是經典者。我當守護。除其衰患。令得安穩。使無伺求。得其便者。若魔。若魔子。若魔女。若魔民。若為魔所著者。若夜叉。若羅刹。若鳩槃荼。若毘舍闍。若吉蔗。若富單那。若韋陀羅等。諸恼人者。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

15日

大安 氏

旧10月26日

月曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

じよ ぶつ ご ねん

諸仏護念

「諸仏に護られていると信じること」

「成就四法」の一つ目。

諸仏に護られていると信じることです。

仏さまに護られているという心持ちになるとは、

仏さまと同じ大慈悲心を持つということなのです。

大慈悲心をもって一切衆生の苦しみを除き、幸福

にするために力を尽くす人を、諸仏は喜んでお護

りくださるのです。

末法の險悪な世の中でも、大慈悲心を持つ人は、

諸仏の加護のもと法華経弘通ができるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

16日

赤口 房

旧10月27日

火曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

じき しよ とく ほん

植諸徳本

「仏に帰依し、徳を積むように心がけること」

「成就四法」の二つ目。

徳を積むように心がけることです。

徳を積む根本には、仏さまに帰依する心がなければなりません。

仏さまを見習い、仏さまと同じ道を歩もうと努めれば、自ずと徳を積むことができます。

煩惱に左右される自分の心に振り回されて、道に迷い悩むことがないように、仏さまに帰依し、徳を積むように努めましょう。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

17

日

先勝 心

旧10月28日

水曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

につ しょう じょう じゆ

入正定聚

「必ず仏に成ると決心した者の仲間に入ること」

「成就四法」の三つ目。

「聚」とは人間の種類のこと。

「正定聚」とは正しい方向を見定めて進む人間の集まりです。

数が多い方に流れたり、声の大きい人のいる方に引き込まれたりせず、たとえ少数であっても正しい方向に進む仲間は大事です。

法華経を信じ、必ず仏となると決心した人たちが集まる法華の寺でありたいと思います。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

18日

友引 尾

旧10月29日

木曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

発救一切衆生之心

「一切衆生を救おうと発心すること」

「成就四法」の四つ目。

一切衆生を救おうと発心することです。

末法に入ると悪人や間違った考えを持つものが
増えてきます。

一切衆生には悪人たちも含まれます。

悪人や考え方が違う人間を相手にするのは嫌だ
と、いつていては、結局誰も救えません。

あらゆる人を見捨てず救おうという決心が滅後
の弘教には必要なのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

19日

先負 箕

旧10月30日

金曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

後ご五ご百ひゃく歳さい

「お釈迦さま滅後の五番目の五百年」

『大集経』には、お釈迦さま滅後の時代を五つに区分し仏教の変遷が予言されています。

最初の五百年は「解脱堅固（仏法が盛んで智慧を得て悟りを開き解脱する者が多い時）」、第二は「禅定堅固（禅定を保つ者が多く仏法の持続される時）」、第三を「多聞堅固（実践が次第に衰えるとき時）」、第四を「造寺堅固（熱心に寺院建立をなす者が多い時）」、そして第五の「鬪諍堅固（仏法が廃れ邪見を増す時）」は末法の初めとされています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

20日

大安 斗

旧11月1日

土曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

じよ
ご
すい
げん
除其衰患

「衰患を除く」

誰でもはじめは一生懸命努力しますが、その結果が速やかに現れなければ失望したり、邪魔をする者が出てきたりします。

そうなるとう力が失せ、投げ出したくなります。これを「衰患」といいます。

「衰患」を除くためには、目先のことに執着せず、先の先を見通して必ず仏に成れるのだと信じ、安穩を得ればよいのです。

普賢菩薩はそれをお釈迦さまに申し出ました。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

21日

赤口 女

旧11月2日

日曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

しよ のう にん しゃ

諸悩人者

「人を悩ます者」

人を悩ます者とは、仏さまの教えを弘めようと努力している人が何か間違いを起こした際に、その間違いを吹聴するような者を指します。

欠点をことさらに攻撃されたら、どんなに善い事をしていても押しつぶされてしまいます。

長所を認めてよりよい結果が出せるように応援し、欠点は指摘をして正すように諭すよう、そつと後押しをしたいものです。

普賢菩薩の守護もそういうものだと思えます。

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

佛告普賢菩薩。若善男子。善女人。成就四法。於如來滅後。當得是法華經。一者為諸佛護念。二者植諸德本。三者入正定聚。四者發救一切衆生之心。善男子。善女人。如是成就四法。於如來滅後。必得是經。爾時普賢菩薩。白佛言。世尊。於後五百歲。濁惡世中。其有受持。是經典者。我當守護。除其衰患。令得安穩。使無伺求。得其便者。若魔。若魔子。若魔女。若魔民。若為魔所著者。若夜叉。若羅刹。若鳩槃荼。若毘舍闍。若吉蔗。若富單那。若韋陀羅等。諸惱人者。皆不得便。是人若行若立。誦誦此經。我爾時乘。六牙白象王。與大菩薩衆。俱詣其所。而自現身。供養守護。安慰其心。亦為供養法華經故。是人若坐。思惟此經。爾時我復。乘白象王。現其人前。其人若於法華經。有所忘失。一句一偈。我當教之。與共誦誦。還令通利。爾時受持誦誦法華經者。得見我身。甚大歡喜。轉復精進。以見我故。即得三昧。及陀羅尼。名為旋陀羅尼。百千萬億旋陀羅尼。法音方便陀羅尼。得如是等陀羅尼。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

22日

冬至

先勝 虚

旧11月3日

月曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

ぜ にん にやく ぎよう にやく りゆう

是人若行若立

「この人 若しは行き、若しは立ち」

法華経を信仰したら、常にお題目を唱えなければならぬと思ふかもしれません。

しかし、真の信仰をしている人が立っているだけで、その心が自然と姿形に現れ、周囲の人が感化され、世の中全体が善くなつていくものです。法華経を信じ、常に世のため人のためになることを考えていれば、黙って立っているだけでも周囲に影響を与えられるでしょう。

それが法華経による「はたらき」なのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

23日

友引 危

旧11月4日

火曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

ろく げ びやく ぞう おう

六牙白象王①

「普賢菩薩が乗る六牙の白象」

普賢菩薩は「理」を表わし、「白」はその「理」に汚
れのないことを表しています。

国や時代が変われば風俗習慣が変わり、絶対的
な真実などないという人もいます。

しかし、様々な風俗習慣を比較研究していくと、
相手を敬う心や平和への願いなど、根底には一
致する「理」が見えてくるものです。

その絶対の「理」は、少しも汚れず、変わることで
ないと示すために白い象に乗っているのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

24日

先負 室

旧11月5日

水曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

ろく げ びやく ぞう おう

六牙白象王②

「普賢菩薩が乗る六牙の白象」

六本の牙は「六根清浄」を表しています。

目・耳・鼻・舌・身・意の六根で正しく受け止め、六根それぞれが連携して総合的に判断できるようになることが「六根清浄」です。

眼で見える情報だけに振り回されず、六根を総動員して物事を見極め、「理」に近づいていくと、さらに六根が清浄になっていくことでしよう。

白象王の「王」とは、象の王様という意味ではなく、非常に優れた象という意味です。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

25日

仏滅 壁

旧11月6日

木曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

う しょ もう しつ

有所忘失

「仏の真意から遠ざかることがないように」

「忘失」とはお経の文句を忘れるということではなく、仏さまの真意から遠ざかる方向に考えが向かっていくことです。

自己流で經典を学び、自分の都合のよいように理解していると間違った考えが身につきます。

天台大師や日蓮聖人など、先師の読み方に学び、正しく理解しようと努めることが大切です。

普賢菩薩は、私たちが「忘失」に陥らないように共に読誦しようと寄り添ってくれるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

26日

大安 奎

旧11月7日

金曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

とつ けん が しん
得見我身

「普賢菩薩の身を見ることを得て」

法華経を受持読誦する者が普賢菩薩の身を見ることによつて、悦びを感じ、緩みやすい心を立て直し、真つすぐに信仰に励むことができるようになる。すると、普賢菩薩はお釈迦さまに伝えました。さらに、普賢菩薩のお姿を思い浮かべ、自分に足りないところを補うように努めていけば、三昧（心が静かに統一され平安な状態）と陀羅尼（善を持ち悪を止める力のこと）を得られると告げられました。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

27

日

赤光 婁

旧11月8日

土曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

せん
だ
ら
に
旋陀羅尼

「善を持ち悪を止める力をめぐらせる」

「旋」とはめぐらせること、「陀羅尼」とは善を持ち悪を止める力のこと。

百千万億人以上の無量の人々に、次から次へと「陀羅尼」を伝えるためには、正しい教えを伝えようとする熱意と真剣に聞く人となりが続ける縁が必要です。

善い事をして悪いことを正すという思いが次から次へと伝わっていけば、百千万億という大きな広がりになっていくのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

28日

先勝 胃

旧11月9日

日曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

ほう おん ほう べん だ ら に

法音方便陀羅尼

「教えを弘めるために方便を駆使する」

「法音」とは仏さまの教えを世のなかに伝えていくことです。

そのためには相手に応じて適切な説き方をしなければならぬので、適切に方便を用います。

普賢菩薩を手本に信仰に励み、仏の教えを世に伝えるために必要な方便を用い、聴く人に適切な教えを伝える力が得られるわけです。

普賢菩薩に見守られていることを自覚し、自らの力を引き出すように励みましょう。

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

若魔。若魔子。若魔女。若魔民。若為魔所著者。若夜叉。若羅刹。若鳩槃荼。若毘舍闍。若吉蔗。若富單那。若韋陀羅等。諸恼人者。皆不得便。是人若行若立。誦誦此經。我爾時乘。六牙白象王。与大菩薩衆。俱詣其所。而自現身。供養守護。安慰其心。亦為供養法華經故。是人若坐。思惟此經。爾時我復。乘白象王。現其人前。其人若於法華經。有所忘失。一句一偈。我当教之。与共誦誦。還令通利。爾時受持誦誦法華經者。得見我身。甚大歡喜。轉復精進。以見我故。即得三昧。及陀羅尼。名為旋陀羅尼。百千万億旋陀羅尼。法音方便陀羅尼。得如是等陀羅尼。世尊。若後世。後五百歲。濁惡世中。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。求索者。受持者。誦誦者。書写者。欲修習是法華經。於三七日中。忘一心精進。滿三七日已。我当乘六牙白象。与無量菩薩。而自圍繞。以一切衆生。所喜見身。現其人前。而為說法。示教利喜。亦復与其。陀羅尼呪。得是陀羅尼故。無有非人。能破壞者。亦不為女人。之所惑乱。我身亦自。常護是人。唯願世尊。聽我說此陀羅尼。即於佛前。而說呪曰

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

29日

友引 昴

旧11月10日

月曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

ぐつ しゃく
求索

「正しい教えを求め索す」

「求索」とは正しい教えを求め索す(さがす)こと。

末法は人心が乱れ、教えが広まらない世です。

間違ったことを堂々と主張し、ときには力づく

で考えを押し付けようとする輩も出てきます。

声の大きい者に逆らえず、生きる意味を見失っ

てしまう人も出てきます。

どのような世の中でも、正しい教えを求め索し、

たとえ少数でも正しい教えを伝える人を普賢菩

薩は守護してくださるのです。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

30日

先負 華

旧11月11日

火曜

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

よくしゅうしゅ ぜ ほ け きょう

欲修習是法華經

「法華經を修習せんと欲せば一心に精進すべし」

「修習」とは、「受持・読・誦・解説・書写」の五種法師行を繰り返し行ない身につけること。

「求索」した真実の教えを信じることが「受持」。

その「受持」した信心が弛まぬように、「読・誦・解説・書写」の助行を繰り返すのです。

お題目を唱えることは大事ですが、我々凡夫が唱題だけで信心をたもつのは難しいことです。助行を繰り返し精進する人を普賢菩薩は守護してくださるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

12月

31日

仏滅 鶯

旧11月12日

水曜

妙法蓮華経普賢菩薩勸発品第二十八

おさん しち にち ちゅう

於三七日中

「一時でも一心に精進するべし」

三七日という数字にとらわれるのではなく、あの期間は一心に精進することが必要であることを示す経文です。

短い時間であっても、一切の世事を捨て、一つのことを考えることがなければ、信心を結実するのは難しいということです。

生活の片手間に学んでいると、少しわかりかけてもそばから忘れていくものです。

一時でも一心に精進する決意が大事なのです。

妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八

若魔。若魔子。若魔女。若魔民。若為魔所著者。若夜叉。若羅刹。若鳩槃荼。若毘舍闍。若吉蔗。若富單那。若韋陀羅等。諸恼人者。皆不得便。是人若行若立。誦誦此經。我爾時乘。六牙白象王。与大菩薩衆。俱詣其所。而自現身。供養守護。安慰其心。亦為供養法華經故。是人若坐。思惟此經。爾時我復。乘白象王。現其人前。其人若於法華經。有所忘失。一句一偈。我當教之。与共誦誦。還令通利。爾時受持誦誦法華經者。得見我身。甚大歡喜。轉復精進。以見我故。即得三昧。及陀羅尼。名為旋陀羅尼。百千万億旋陀羅尼。法音方便陀羅尼。得如是等陀羅尼。世尊。若後世。後五百歲。濁惡世中。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。求索者。受持者。誦誦者。書写者。欲修習是法華經。於三七日中。忘一心精進。滿三七日已。我當乘六牙白象。与無量菩薩。而自圍繞。以一切衆生。所喜見身。現其人前。而為說法。示教利喜。亦復与其。陀羅尼呪。得是陀羅尼故。無有非人。能破壞者。亦不為女